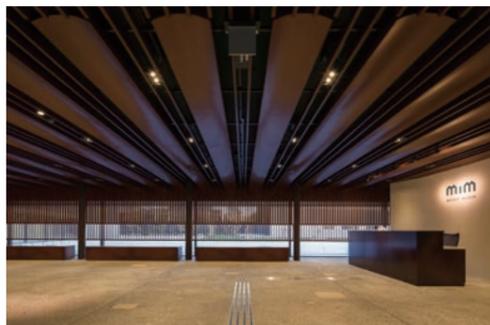
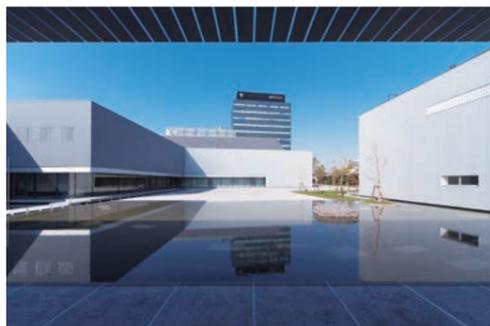




従前意匠を踏襲したエントランス建屋



中庭の気配を感じるエントランス空間



光の庭から中庭を望む。



勾配屋根が重なる南東角の外観



MIZKAN MUSEUM

選評

江戸時代より半田を拠点に、酢づくりの事業を展開してきた地元企業・ミツカングループの、博物館施設である。敷地はもともと酢づくりの工場があった場所で、半田市において歴史的景観を現在に至るまで維持し続けている、運河沿いのエリアである。市の景観形成重点地区にも指定されているエリアでもあり、年間を通じて多くの観光客が訪れるという意味で、官民を超えた公共的財産としての側面を強く持つプロジェクトであると言える。そういった状況の中、本施設は周辺の歴史的景観を最大

限維持するよう、低層型建築とし、また、かつての工場群を思わせる外装仕上げで全体が統一されて、歴史的風景の維持形成に配慮している。地域資産である運河沿いの景観を守る姿勢が建築計画全体に感じられる点は、特に高く評価された。建築を道路にダイレクトに面して配置する配置計画によって、敷地の中央部には中庭が生み出されるが、その中庭は施設内に光を取り入れて、施設内部を明るく開放的な雰囲気演出する建築的装置としての役割を果たしつつ、同時に、施設内容と街を繋ぐ都市空間の一部にもなっているように見受けられた。

施設内容としては、このエリア固有の観光資源として、酢の製造過程、酢の歴史、企業史などを紹介する、体験型博物館と言えるものだ。企業の精神、この地域の歴史、それらの一体性を強く感じさせる展示内容であり、それだけでなく日本の近世の文化と近代化に至る歴史までも感じさせる内容となっており、また半田固有の歴史だけでなく、江戸との関わりと

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはなアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」駅前広場キャノピー TSURUMI子どもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコミュニセタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館



建築主

より 「伝統・革新・環境」の融合

MIZKAN MUSEUM (以下 MIM) は、ミツカングループの創業の地、半田において、その歩んできた歴史に触れ、今を感じ、未来につなげる施設として設立され、MIMの愛称で親しまれて、早2年半が経過し年間10万人の方が来館されます。

MIMは、古くから続く運河沿いの黒塀の景観とともに、ミツカンの酢づくりの歴史や、醸造の技術、ものづくりへのこだわり、食文化の魅

力などを、「伝統・革新・環境」を大切に考え、次世代へ伝えてゆく施設です。一貫して「伝統・革新・環境」を具現化する施設づくりに取り組んだ結果、本賞の栄誉を賜り、非常に嬉しく思います。

今後も、「伝統・革新・環境」を大事に思い、見てさわって、楽しみ、学べて、また来たいと思ってもらえる体験型博物館を目指して取り組んでまいります。



MIZKAN MUSEUM
館長
榊原 健
Takeshi Sakakibara



株式会社
NTTファシリティーズ
関西事業本部
建築設計部門 担当課長
小川大志
Taishi Ogawa

地域に新しいコンテキストを形成

当ミュージアムは、ミツカン発祥の地である知多半島・半田に計画されました。黒塀と勾配屋根によるシルエットや実用的なディテールが印象的な従前の建屋群は、空間に独特の奥行きを与え、ゆったりした時間の流れる運河沿いの風景を構成していました。

私たちは風情ある景観を継承しながら、新しい空気感を備えた建築のデザインを試みました。街路沿いへの建屋配置や地域に開かれた中庭、

気候風土を活かした環境施策や新旧の素材選択などを通じ、企業理念や地域性、自然環境、商業アイテム等の多様な価値観を受け止め、互いに高め合って「伝統・革新・環境」のメッセージを発する場の形成を目指しています。

世代を超えた人々がこれを感じ取り自らの記憶に刻むことで、企業の思いや地域の歴史が未来へと継承されることを願っています。

設計者

より

施工者

より 「過去から未来へつなぐ」建築

当プロジェクトにはミツカン本社地区再整備プロジェクトの一環として、早くより参画し、全体のコンセプトである「伝統・革新・環境」を実現すべく、関係各者と一体となって取り組んでまいりました。

仕上げ各所では、半田運河周辺景観のイメージを残すべく既設建屋の古材等を多く再利用出来るよう、現物モックアップ等による検証を何度も行い、街並みにフィットした建築を実現するこ

とが出来ました。機能的にはBCP対応のための免震化や、省エネ対応の取組みを行い、安心して利用していただける施設を、造り込めたと思っております。

建物は使っていただく人の想いによってどんどん変わっていきます。社員の皆さん・地域の皆さんに愛していただき、これからのミツカン様の歴史・半田の歴史と共に歩んで行く施設となることを望んでおります。



株式会社竹中工務店
名古屋支店
作業所長
石川昭典
Akinori Ishikawa



昔の小屋組を再利用した「大地の蔵」



光の庭を活用したセタコンサート



中庭と連続した「光の庭」

「選考委員」
西沢立衛・能勢修治・尾崎勝

高く評された。

以上のことをまとめると、歴史景観に調和する建築配置の計画と、建築形態・外装仕上げなどの計画の統一性、また、地域の歴史と文化を伝える展示内容、地域と一体となった企業の存在を象徴する建築のあり方、それらが総合として、感じられた。

この運河沿いのエリアは、それ全体として歴史的な地区であり、近隣の建築群、前面の運河、路地など、環境全体がいわば生きた展示物であるとも言える。その意味でも、室内の展示計画と周辺環境がもつ歴史的風景は、より有機的に連続しうるのではないかと、とも感じられた。

いったグローバルな視点をも提供するもので、大変興味深いものであった。それは、この土地に興味を持って訪れる多くの来館者の期待に十分に応えるものを担っていると想われた。

計画概要

建築主：(株)中野酢店

設計者：(株)NTTファシリティーズ

施工者：(株)竹中工務店

所在地：愛知県半田市小中村町 2-6
竣工日：2015年9月15日

敷地面積：6,318㎡
建築面積：3,288㎡
延床面積：5,173㎡

階数：地上2階、塔屋1階
構造：鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)